

うたのなかやませいがんじ  
歌中山清閑寺の林泉は真妙にして、庭中に要石あり。「或云六条院御陵小堂の趾なりといふ」此地嵯峨渡月橋より

見れば獅々口に似たるとて此名を呼ぶ。又高倉院たかくらのゐんの御陵あれば、御愛樹の丹楓多くして暮秋の眺望錦繡を晒すが如し。

又山谷に松茸生じて洛陽の貴賤むれ来つて游蕙を催す、風流の勝邑なり。

清閑寺百首原花といふ題に

草 庵 山風のさそふもしるゝまきもくの松原くもりてちる桜かな 頓 阿

東へまかり侍しに、清閑寺に立よりて道我僧都にあひて、

秋はかへりまうでくべきよし申侍しかば、僧都

兼好集 かぎりしる命なりせばめぐりこん秋をもせめて契をかまし 道 家

かへし

ゆくすゑのいのちもしらぬ別こそ秋とも契る頼みなりけり 兼 好